

住友ベークライト株式会社による 川澄化学工業株式会社株式に対する 公開買付け結果について（要旨）

2020年10月1日
住友ベークライト株式会社
川澄化学工業株式会社

公開買付けの結果

概要

住友ベークライトが2020年8月3日より実施していた川澄化学工業株式の公開買付けが終了。応募株券の総数が15,142,598株と買付予定数の下限以上となったので、応募株券全部の買付けを実施。

買付代金

約257億円

決済開始日

2020年10月7日（水）

持株比率

(住友ベークライト)

公開買付前持株数：	4,763千株	(持株比率：23.04%)
今回の応募株数：	15,143千株	(持株比率：73.27%)
合計	19,906千株	(持株比率：96.31%)

今後の予定

住友ベークライトは、川澄化学工業株式の全ての取得を目的として、株式売渡請求を行う予定です。

※株式売渡請求：会社の株式を90%以上有する特別支配株主が少数株主に対してその有する株式の全部を売り渡すように求めることができる制度

その他

2020年10月7日（水）付けで川澄化学工業は住友ベークライトの連結子会社となる予定

住友ベークライト中期経営目標の基本戦略と事業戦略

基本戦略

- 競争優位性のある新製品の開発、早期戦力化
- 既存製品の収益力強化、領域(用途・地域)拡大
- **成長領域における積極的な戦略投資(M&A等)**

SDGsを重点領域を核に推進



貢献製品売上比率
21年度30%目標

SDGs貢献領域(5+1)



One Sumibe活動をWWに展開



重点領域：ヘルスケア分野の事業戦略

- ✓ 成長領域・低侵襲治療分野への積極的展開
- ✓ 医療機器の高度化・専門化への対応
- ✓ 社外との連携・協業による事業規模拡大



【製品例】
ステアリング
マイクロカテーテル



ガイドワイヤ無しで先端が自由に動き、迅速・確実に患部血管に到達でき、短時間での手術可能

両社事業領域と今後の注力分野



川澄化学工業

注力分野

低侵襲治療



住友ベークライト

既存領域



人工透析



血液浄化

輸血関連



消化管ステント



ステントグラフト



内視鏡治療

胆管ステント



血管内治療



内視鏡クリップ[®]



ステアリング
マイクロカテーテル

既存領域



消化器系



投薬管理



呼吸器系

新製品開発の取組み (川澄)

- ① 対応部位の拡大
- ② 改良・周辺デバイスの充実
- ③ 海外展開の加速



大動脈用ステントグラフト



大腸ステント



I T胆管ステント

GOOD DESIGN AWARD
2019年度受賞

期待されるシナジー（研究・開発）

▶ 次世代医療機器製品の研究・開発促進

両社が有する情報や知見を制限無く共有し、保有の設計・成形・溶着・金属加工・組立・評価・シミュレーション等の技術の融合で次世代医療機器製品の研究・開発をさらに促進させる

▶ 研究・開発の効率化

研究・開発から承認取得、販売開始までの長期間必要な調査・基礎実験・評価・動物実験・安全性試験・治験・薬事・外部コンサル等の業務を共有化することで効率化につながる

川澄化学工業 研究開発部門の移転

川澄化学工業は、2020年3月に川崎市殿町国際戦略拠点（キングスカイフロント）に研究開発拠点の建設工事を開始。現在同社三重工場（大分）内の研究開発拠点を国内外からアクセスの容易な新拠点へ移転する計画が進められています。

- ① 所在地：神奈川県川崎市川崎区殿町3-25
- ② 面積：土地3,971m²/延床6,392 m²（鉄骨造地上4階）
- ③ 建設費用：約30億円
- ④ スケジュール：2020年3月着工済
2021年4月竣工
2021年10月稼動



建物イメージ（竹中工務店提供）

期待されるシナジー（生産・販売）

➤ グループとして事業規模を拡大し業界プレゼンスを向上

業界におけるメインプレーヤーとして、ブランドカアアップや事業規模拡大によりプレゼンス向上

➤ 国内外拠点の統合・相互活用により効率化

両社の販売網を統一化や相互補完するとともに、効率的な生産体制の構築を図る



期待されるシナジー（業務・人材）

➤ 間接業務統合による経営効率向上

間接部門の業務統合やグループ一体でのシステム投資による効率化可能
例) 投資家対応業務、資金調達関連業務、株主総会運営関連等

➤ 人材の相互活用による最適化

営業・生産・研究・薬事の人材相互活用と最適な人材配置によりビジネスの効率化を図る

**連結完了後のプロジェクトで各分科会を設置
シナジーの具現化とマスタープランを作成予定**